

## 学生時代を振り返って

矢野 朱美 (No. 4723)

大学では地学（火山学）を学んでいたが、就職は建設業の事務職である。

高校3年生のときは、就職のことは何も考えておらず、ただ地学を勉強したいなど大学に入ることに必死だった。入学して地学の勉強を始めると大変楽しく地球のメカニズムを少しでも理解できて充実した大学4年間だった。今でも大学の巡検で訪れた北海道の昭和新山や樽前山、能登半島、山籠もりした3週間、卒業論文のテーマであった白山火山は忘れられない。



マグマ溜りの形成過程について卒業研究で多くの論文を読み、考察していたことを非常に誇りに思う。しかしながら、就職はどうしようかとかなり悩んでいた。

大学3年になり本格的に就職活動を始めると、自分が本当にやりたいこと、これから自力で生きていくために必要なことは何かを悩み、考えた。就職活動では、様々な分野の会社の説明を聞き、会社説明会に参加して実際に働く様子を見て回ったが、その中でも特に気になったのは建設業界だった。建設業界で働く父親の影響もあり、小さい頃から建設業という仕事に触れていたからかもしれない。

この4月から新入社員として建設業界で働いている。就職する前の工事現場のイメージは、機械ばかり使うからそれはすごいものが作れるだろうと甘い考えをしていた。今は、現場を見る機会があり、ひとつひとつ丁寧に人の手で作り上げられているとわかり、ものすごく感動している。もちろん大型の機械は使用するが、それを動かすのは人であり、工程を管理しているのも人である。皆さんの頑張りによって私たちがより便利な生活ができていると感謝の気持ちでいっぱいである。私も何か皆さんのお役に立てるように精進していきたい。

現在は色々な方とお会いして、日々勉強になることばかりである。忙しく1年目でまだまだ学んでいかなければならないことが多数あり、日々周りの皆さんに助けをいただいているが、今大変充実した毎日を送っている。仕事は難しいが非常に楽しい。この後もひとつひとつの仕事に向き合って成長していけたらと思う。

(建設業事務職)